

卒業研究		演習	教授 西川 彰 准教授 伊藤 新
科目カテゴリー	柔道整復師コースの必修科目	科目ナンバリング	12130401

1. テーマ

柔道整復学の領域における評価法や治療法の検討

2. ゼミのねらい・概要

最終学年での履修となるこの授業は、医療専門職を志す者にとって総仕上げとなるものである。これまでに学んできた「人体に関する構造や機能」「疾病や外傷の特徴とその治療法」「スポーツにおける障害とその予防」「スポーツ選手に対するトレーニング方法」などから自身で研究テーマを決定し、関係する論文の探索、被検者実験の実施、実験結果の検討等を順に行い、研究発表会を経た上で、最終的に卒業研究論文を作成する。さらに、それに関連する分野として、柔道整復学および内科学（一般臨床医学）、病理学の理解を深めることを目的に国試対策の指導も実施する。また、担当する教員はクラス担任としてゼミを運営し、必要に応じて学生への個別面談も行う。

3. ゼミ計画

〈前期〉 1. ガイダンス、履修指導 2. 研究指導①（研究テーマの決定と先行研究の探索） 3. 研究指導②（研究計画書の作成） 4. 国試対策指導①（内科学：診察各論） 5. 国試対策指導②（柔道整復学：肩関節周辺の骨折） 6. 研究指導③（実験対象の選定と依頼） 7. 研究指導④（実験スケジュールの作成） 8. 国試対策指導③（内科学：主要な疾患） 9. 国試対策指導④（柔道整復学：肘関節周辺の骨折） 10. 研究指導⑤（予備実験の実施） 11. 研究指導⑥（実験結果の検討） 12. 国試対策指導⑤（病理学：概論） 13. 国試対策指導⑥（柔道整復学：手関節周辺の骨折） 14. 研究指導⑦（中間発表会の準備） 15. 中間発表会	〈後期〉 1. ガイダンス、履修指導 2. 研究指導⑧（第1回本実験の実施） 3. 研究指導⑨（第2回本実験の実施） 4. 国試対策指導⑦（病理学：運動器の病理） 5. 国試対策指導⑧（柔道整復学：上肢の脱臼） 6. 研究指導⑩（実験結果の検討） 7. 研究指導⑪（論文作成の手順） 8. 国試対策指導⑨（柔道整復学：頭・体幹の骨折、脱臼） 9. 国試対策指導⑩（柔道整復学：上肢の軟部組織損傷） 10. 研究指導⑫（図表の作成） 11. 研究指導⑬（本文の作成） 12. 国試対策指導⑪（柔道整復学：頭・体幹の軟部組織損傷） 13. 国試対策指導⑫（柔道整復学：下肢の軟部組織損傷） 14. 研究指導⑭（論文の仕上げ） 15. 最終発表会
---	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

研究指導時には「研究レポート」を事前に作成して提出すること。また、国試対策指導時にはテキストの指定範囲の予習を行った上で授業に臨むこと（各1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートについては添削、採点を行った上で返却する。また、定期試験については正答と問題の要点を希望者に配布する。

6. ゼミにおける学修の到達目標

本授業では、研究テーマに基づいて行った研究結果に考察を加えて論文にまとめると同時に、柔道整復学、内科学、病理学、リハビリテーション医学について柔道整復師国家試験の合格基準を満たす知識レベルまでの到達を目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

定期試験（期末試験）の結果（約50%程度）並びに卒業研究成果物の内容（約50%程度）により総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

全国柔道整復学校協会 監修、『柔道整復学・理論編 改訂第7版』, 南江堂, 2022年
全国柔道整復学校協会 監修、『一般臨床医学 第3版』, 医歯薬出版, 2013年
全国柔道整復学校協会 監修、『病理学概論 第3版』, 医歯薬出版, 2012年
その他の参考資料は, 必要に応じて授業中に紹介または配布する。

9. 受講上の留意事項

毎回の授業時にはテキストおよび配布資料を必ず持参すること。
講義回数の3分の1以上を欠席した場合は, 定期試験の受験資格および卒業研究論文の提出資格を失うこととする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本ゼミは, 接骨院での臨床経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。